



理学部1号館の玄関付近 積み込みのための荷物がいっぱいであるため、能率が悪い

「ただ、非常に大変」の一言であろう。おそらくこの言葉は、移転を行ったおそれなく、お聞きしても返ってくる言葉であろうが、実際にやってみないと実感としては受け取れないことでもある。私は、今年たまたま教室主任と移転委員を仰せつかったのであるが、肉体的労働よりも、いろいろな人の意見のまとめと調整に精力を使うことのほうが多く、とくに我々の教室は小さいにも拘らず、岩石標本という大変な重量物を運ばなくてはならなかったために、構成員にはかなりの負担を強いることになってしまった。こうした経験からすると、移転期間中は、移転を最優先とするよう構成員全員の了解をうる

ことが重要である。ちよつとしたことが、思わぬところで他の人に負担がかかるだけでなく、当初の予定とはまったく違ったスケジュールで作業を行わなくてはならないことも少なくないのである。構成員全員に常に待機する心

構えをもってもらうことが肝要であろう。施設部とのヒヤリングでは、電気的位置ひとつにも充分過ぎるほどの注意を払わなければ、後で多額の校費を支払うことになりかねない。これは非常に大変な負担になる。以下に、当教室でいただいた僅かな意見ではあるがご紹介しよう。

梱包、運搬の順序は？ 自分ができることは？

成功談についてはほとんど無し。移転中の毎日が失敗の連続だったのではないだろうか。移転中は成功だと思っていたことも、後で失敗だったと気づくことも少なくない。事務室の方々にとってはヒヤヒヤものだったに違いない。大過なく進められるということが大成功ということであろう。少し内容はとぶけれども、他教室から返納された物品の中に、我々にとって大変役にたつものが発見できたことをつけ加えておこう。資・試料はかなり早くから梱包したほうが良いのであるが、試料を箱にいれてかさばったために、移転時になつて箱をいれておく部屋が無い状態が起ることに気を配った方がよいであろう。各部屋(教官室、試料室、実



搬出直前の理学部1号館地学科の廊下 積み込み順の荷物整理

験室など単位で片付けるのであるが、その順番に注意するべきであろう。例えば、実験室から整理を始めるべきで、教官室から始めると最後の最後まで時間がかかり、対応が遅れてしまうことになりかねない。精密機械、ガラス製装置等で、自分で運べるものはできるだけ自分で運んだ方がよかつたと反省している。業者に梱包、設置を任せる特A物品であっても、移転後に不良箇所のあることがわかつて修理費がかさんだり、業者の都合で運ばれ設置されるために、中には実験の再開が大幅に遅れてしまうものもあつて、移転前に業者

と充分に話をしておくことが大事である。

以上、かなり暗い話ばかりをしたようであるが、西条キャンパスは恵まれた自然のなかで日当たりや空気もよく、研究と教育には良い環境である。我々の経験が次に続く方々の移転に充分に生かされ、一日も早く全ての移転が完了して、最上キャンパスにしていきたいものである。最後に、今回の移転に際して、理学部長をはじめ、理学部事務職員、そして運送業者の方々に多大なお世話になった。この場をお借りして厚くお礼を申し上げたい。

理学部移転業務を終了して

九州西武運輸株式会社

内田 俊介
若松 茂年

六月一九日の現地説明会から七月一日の現地作業開始。そして九月二四日作業終了までの二ヶ月間、今振り返ると「アッ!」とい

う間のできごとであった。西川学部長には常に移転作業現場に立たれ、作業の流れと各教室の準備状況を見合わせながら、適切なアドバイスを頂いた。時には移送用の台車まで押したり引いたりされ、こちらはただただ恐縮するばかりであった。この率先垂範が成功の大きなポイントであったように思う。また用度係の方が事前に作成されたスケジュールや一日の輸送量も的確で、よくここまで正確に把握されたものだと感心させられたものである。

移転業務は、発注者側と業者との意志の疎通が充分にできて初めてうまくいくものであるが、今回はその点理想的であった。当社のこれまでの経験も多少は役に立ったと思われるが、用度係の方々を中心とした事務職員の皆さんの熱心な取り組みに対し、改めてお礼を申し上げたい。これほどの規模の移転業務は年中あるというものはありません。それだけに無事終了した後の充実感、達成感はそのれに携わった者にだけしか味わえないものであろう。「何か書いてください」といわれ、これも移転終了の祝賀会のおいしい食べ物と、好きなお酒とをかなり頂いた後だったのも手伝い、安請合いをして

しまったが、これがこの移転作業での唯一最大の失敗であった。しかし約束したのであるから知らない知恵をしぼり、自分では書けないことを棚にあげて、みんな何か苦労話かエピソードでも話をしてきてきたものが以下のものがある。

述べ作業日数三十六日。私自身、このような長期の日程は初めてであり、一抹の不安があったのも事実である。上司から「この理学部全体、一号館、二号館、三号館を一度にやろうとすることは不可能である。一日一日の作業メニューを計画的に消化していくことでさほど困難ではない」、また「作業完了後の達成感の喜びは大きいものだ」と元気づけられて完遂できたのだと思っている。私の作業配置は東千田町キャンパスの搬出で、車と建物の間をつなぐスロープ、重さ約二トンの鉄板を正面玄関に設置することから始まる。四トンユニットクレーン車で釣り上げて設置するのだが、なかなか一回では決まらず、鉄板の先端に台車を敷いて階段まで届けるのに成功した。次はその高さの調整である。階段側は薄い板切れで微調整して段をなくする。トラックのボディ側の高さ調整は角材を敷く

ことで簡単であったが、階段側が下ることに気づかず〇・五cmぐらいの段差ができてしまった。僅か〇・五cmといえども、これは荷物の落下事故につながるおそれがあるので、コンパネを敷くことで調整したのである。

さて、アルバイトの学生諸君の役割も決まり、いよいよ積み出しである。鉄庫(ロッカーなど)、机、ケースもの、変形の実験器具、その他もろもろの形のものがあり、「われもの注意」「下積み無用」「横積禁止」などのステッカーが貼りまくってあるので積み込みに非常に苦労する。なかでも「横積禁止」「天地無用」のステッカーが上にも下にも、斜めにも貼ってあったりして、どちらが上なのか下なのか判断のつかないものも少なくなかった。また「われもの注意」のステッカーが貼ってあってもガラガラと音がするもの、トラックの振動で割れそうなものもあった。梱包は我々がしないことも関係して、積み付けには特段の気遣いをした。教室によつては、「下積み無用」のステッカーが全部に貼ってあり、積み付ける際に段数を少なくして出発させなくてはならないこともあった。

着時間の問題であるが、積み込み時間四十分、新キャンパスまでの運行時間一時間、荷おろし時間四十分、帰りの運行時間一時間はどうしても必要である。この所要時間が基本になって車両が回転しないと、作業には大きな影響がでてくる。トラックは一日三〜四台が二往復し、最後の一台が夜積み用となる。道路工事や交通事故のために所要時間が大幅に狂い、双方の作業の終了時間に著しい遅れがでたこともあったが、我々はその時間を無駄なく別の作業に活用した。三階から一階へ荷物を降ろす作業、一号館から二号館への移動作業など、その日の作業メニューを完全に消化するための苦心である。その成果もあって、作業は驚くほど順調に推移した。

以上のように、いろいろな苦労や失敗もあったが、大過なくこの仕事を終えることができたのは、ひとえに学部長をはじめ教職員の皆様のお陰である。移転作業に携わった私たち全員は深く感謝している。最後に、毎日毎日、作業中に冷茶のサーブスをしてくださった女子職員の方々にあらためてお礼を申し上げ、移転作業の感想を終わりたいと思う。